

区分別科目	呼吸器（気道確保に係るもの）関連		時間数 （法定）	10（9）
特定行為名	（A）経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整			
担当指導者	福井 道彦（医師） 三木 健児（医師） 碓井 太雄（医師） 山西 正芳（医師） 河村 佑太（看護師） 川上 敦司（医師） 自閑 昌彦（医師） 清水 優（医師）			
学ぶべき事項	（共通）呼吸器（気道確保に係るもの）関連の基礎知識	1. 気道確保に関する局所解剖 2. 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関する病態生理 3. 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関するフィジカルアセスメント 4. 経口又は経鼻気管挿管の目的 5. 経口又は経鼻気管挿管の適応と禁忌 6. 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの種類と適応 7. 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブによる呼吸管理 8. バックバルブマスク（BVM）を用いた用手換気		
	（A）経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	1. 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の目的 2. 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の適応と禁忌 3. 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に伴うリスク（有害事象とその対策等） 4. 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技		
研修概要	（共通）呼吸器（気道確保に係るもの）関連の基礎知識	気道確保の必要性や方法を理解し、安全に経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの深さの調整を実践できる看護師を養成する。		
	（A）経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	医師の指示の下、手順書により、身体所見（呼吸音、一回換気量、胸郭の上り等）及び検査結果（経皮的動脈血酸素飽和度（SpO2）、レントゲン所見等）等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、適切な部位に位置するように、経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの深さの調整を行う。		
到達目標	1. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、経口用気管チューブ又は、経鼻用気管チューブの位置調整ができるようになる。 2. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。 3. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。 4. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。			
評価方法	講義：eラーニングの受講及び講義確認テスト			
	OSCE：評価表（Mini-CEX）を用いた観察評価			
	実習：評価表（Mini-CEX）を用いた観察評価			
	試験：eラーニング上で筆記試験を実施			
研修内訳	講義（9 時間）	視聴時間 45 分＋講義確認テスト 15 分		
	OSCE(1 時間)	OSCE は、講義室で行う		
	実習	実習は指導者のもと、宇治徳洲会病院で行い、最低 5 症例経験する ※各行為の実習観察評価 0.25 時間は 5 症例目の実習時間に含める。		
	試験（1 時間）	科目修了試験（筆記試験）1 時間 （共通）呼吸器（気道確保に係るもの）関連の基礎知識 0.5 時間 （A）経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整 0.5 時間		

授業計画						
科目名	回	研修方法 /評価	授業 形態	学ぶべき事項		担当指導者
呼吸器 （気道確保に係るもの）関連	第 1 回	講義	放送	（共通）呼吸器（気道確保に係るもの）関連の基礎知識	気道確保に関する局所解剖、経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関する病態生理	福井 道彦 三木 健児 碓井 太雄 山西 正芳 河村 佑太 川上 敦司 自閑 昌彦 清水 優
	第 2 回				経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関するフィジカルアセスメント	
	第 3 回				経口又は経鼻気管挿管の目的、経口又は経鼻気管挿管の適応と禁忌、経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの種類と適応	
	第 4 回				経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブによる呼吸管理、バックバルブマスク（BVM）を用いた用手換気	
	第 5 回		面接	(A) 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の目的	
	第 6 回				経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の適応と禁忌	
	第 7 回				経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に伴うリスク（有害事象とその対策等）	
	第 8 回				経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技(1)	
	第 9 回				経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技(2)	
		実習	面接		OSCE 前実習（シミュレーターを用いた実習）	
		OSCE	試験		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	
		実習	面接		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整（見学）	
	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の実施					
	第 10 回	試験	試験	科目修了試験（筆記試験）		

参考図書・資料等	全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード
備考	* e ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う (祝祭日を除く)。 * 1 回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学習進度に応じて履修開始後、連絡される。 * OSCE は講義室で行い、Mini-CEX により評価され、基準に達していない場合は、実習を行うことができない。 * 各行為の実習観察評価 0.25 時間は 5 症例目の実習時間に含める。 * 科目修了試験 (筆記試験) は、各時間終了後に行われる確認テスト及び実習で学習した範囲より出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。